

学位記番号： 修士第42号
氏名（本籍）： 村田 佐登美（滋賀県）
学位の種類： 修士（看護学）
学位授与年月日： 平成15年3月27日
学位論文題目： 生体インピーダンス法を用いての妊婦の健康管理の検討

論文内容要旨

<目的> 生体インピーダンス法を用いて妊婦の健康管理を検討する。

<方法> 産科合併症のない単胎妊娠で妊娠36週の正常妊婦91名を対象者とし、縦断的に産褥1ヶ月までインピーダンス値を測定した。そのインピーダンス値を低値群妊婦と正常値群妊婦に分け、低値群妊婦の分娩の特徴から健康管理を検討した。

インピーダンス値の測定は、妊婦健診に来院した妊婦に、タニタ社のマルチインピーダンス機BCA-60を使用し測定した。手順は、外来にて両足間の4点のインピーダンス値の測定を実施した。また分娩にて入院中は、病棟において同じ機械を用いて測定した。産後は退院後の1週間健診、1ヶ月健診に受診時、同様に外来にて測定した。

分析は、妊娠期インピーダンス値と産科学的項目をピアソンの積率相関係数を用いて行い、低値群と定常値群の比較は、 χ^2 検定とT検定を用いた。

<結果>

1．インピーダンス値は、妊娠36週から分娩までゆるやかに低下し、分娩当日には一旦上昇がみられ、また産褥3日頃までゆっくり低下し、産褥4日からは再度上昇がみられ、産褥1ヶ月頃には、分娩前の最低値より約120 上昇していた。

2．インピーダンス値は正常値群と低値群に分類でき、低値群は非妊時より低値グループ、妊娠を契機にして低値になったグループの2種類に分類できた。また、低値群妊婦は、医療介入の多い分娩となる比率が有意に大きかった。

3．非妊時体重・BMI、分娩時体重、出生児体重、産褥1週間健診時の体重、産褥1ヶ月健診時の体重は有意な負の相関関係にあり、産褥入院中のインピーダンス値、産褥1ヶ月健診時のインピーダンス値においては正の相関を示した。

<考察> 妊娠期における女性の体水分量は妊娠36週から緩やかに増加し、イ

ンピーダンス値も低下しており、体水分量の変化を捉えていた。次にインピーダンス値低値群妊婦は、分娩時に医療介入の多い分娩となりやすい。また、インピーダンス値は、妊婦の健康管理にとって、従来のBMIと併用することで、体水分量と体重の評価ができる指標として活用できると考える。そして保健行動において、インピーダンス値の経過をみることは、妊婦にとって体水分量を数値で示すことができ、妊婦のやる気につながると考える。

< 総括 >

- 1 . インピーダンス値は、妊婦の健康管理にとって、従来のBMIと併用することで、体内の水分量の評価ができる指標として活用できる。
- 2 . インピーダンス値は、BMI単独よりも分娩のリスク分類をより正確にできる。妊婦の健康管理には、危機感ときっかけが必要であり、インピーダンス値がそのきっかけとなりうる。